



~~D~~
~~1078~~

古
書

素
傳
用
巻

逍遙文庫
文庫 6
951



文庫6
951

古今

雑話



殺生のつとむるのつとむるむくいのあつてふりくの仁經小町をえて
 こゝろあつてしういふつとむるむくいのあつてふりくの仁經小町をえて
 無住の沙石集長明の發心集など物のむくいのあつてふりくの仁經小町をえて
 おく載たりちうゝ因果物語新著聞集あり此繪草紙の
 新著聞集あり此繪草紙の
 親の因果は子むくふ物語兄弟は娘孝義貞節乃功德小
 ころてゆくとも業あつてふりくの仁經小町をえて
 後著聞水月談と名づりたりねえね筆のつとむる
 後著聞水月談と名づりたりねえね筆のつとむる



醒醒老人

山東京傳作



江戸馬喰町二丁目
 地本 屋 森屋治兵衛板行



丹波国 丹波村
山雲の
ふれの山
山ありて
むすめあり
後三日月娘と云



ねさぐら
つづら
りざれ
ゆき
おのの
物と
しと

津国箕尾の住人
玉判官国次の家臣
櫻井露五郎

山かつ
後露五郎妻小由美

おふハ津の女ご
奴乃小蘭



播州明石漢人網藏のハ
櫻井露左衛門のハ
燭六

力健誰
能敵威
雄孰可當
行の阿波ふむま
梅翁宗因



津国蛇塚村の
浪人栗野夕郎

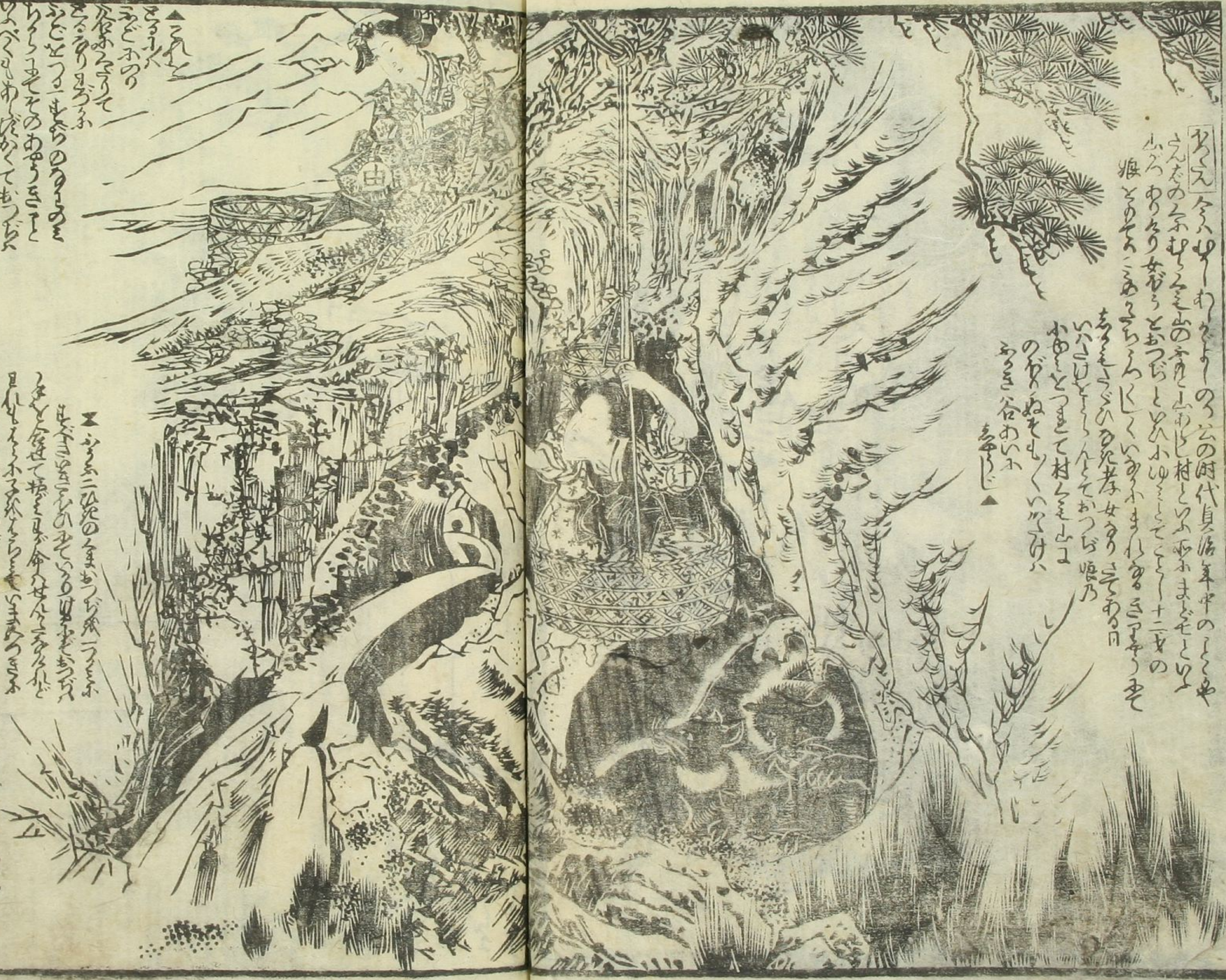
懐
秋の
晋子其角

但馬国琴引山のふり
昔蒲池の名右衛門後家

猿
化身

おんをいひわたりのついで身命年中のいふ
さなめおむらむおのそらとわらじ村といふおままだと
いふおのり女おとあつらとよみおゆとてこゝろ十二の
娘といふいふおちんじくいふおまはるる三つおま

あまのつひのあまの女おのりてあの日
いひおひていふおとあつら娘乃
おゆとて村といふ
のやねもいひいひけい
あまの谷といふ
まじ



おんをいひわたり
さなめおむらむ
いふおのり女
おとあつら
とよみおゆ
とてこゝろ
十二の娘
といふいふ
おちんじく
いふおま
はるる三つ
おま

あまのつひのあまの女おのりてあの日
いひおひていふおとあつら娘乃
おゆとて村といふ
のやねもいひいひけい
あまの谷といふ
まじ



こゝろは... 水田のむら... 井つゆき... 丹波のふみ...



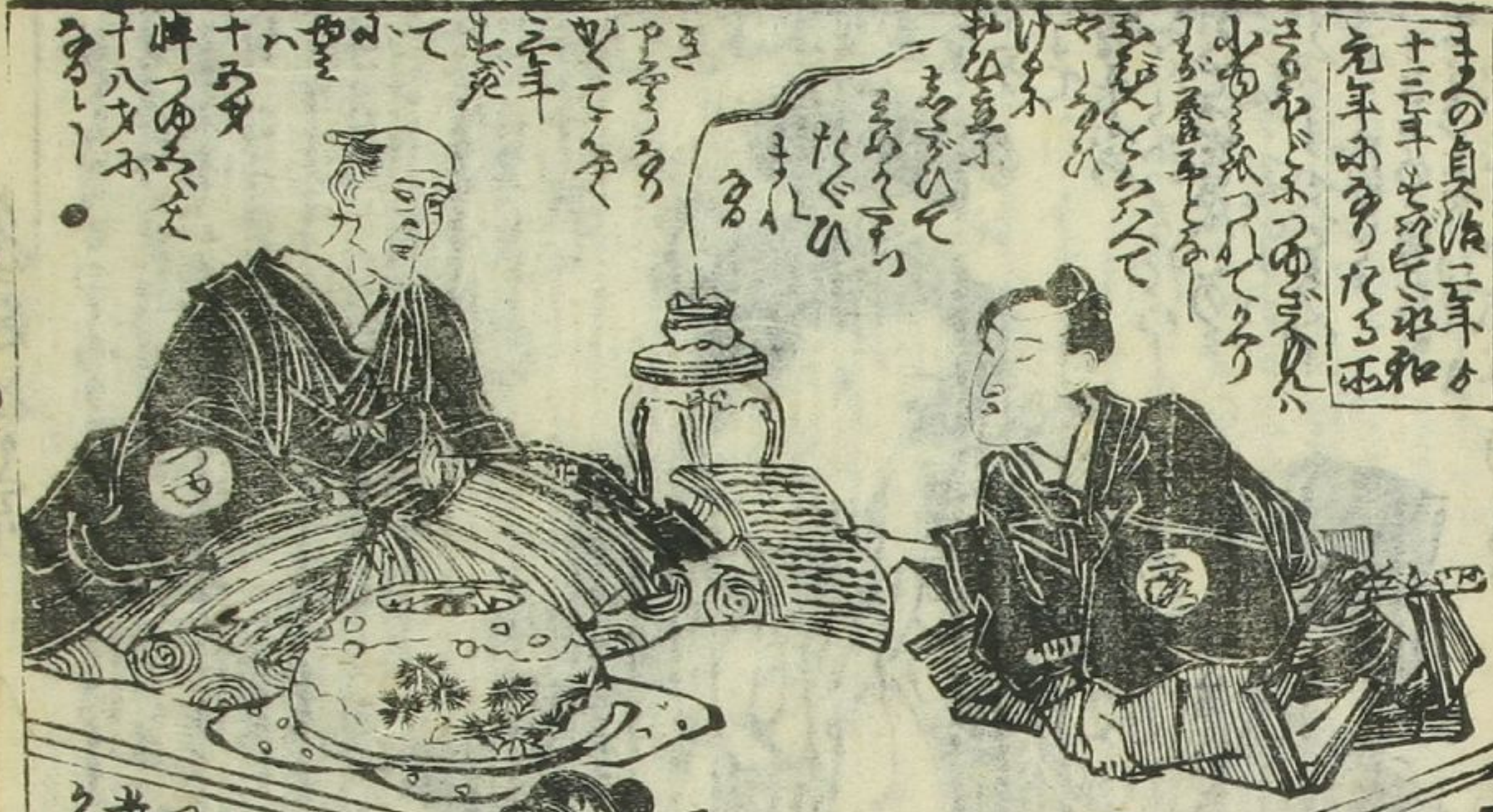
おれは... 丹波のふみ... 井つゆき...

十あ... 丹波のふみ... 井つゆき...



おれは... 丹波のふみ... 井つゆき...

おれは... 丹波のふみ... 井つゆき...



十の月
 十の日
 十八の月
 十八の日
 十八の月
 十八の日

まの自便二年の
 十二年とて
 元年の多かりたる
 乙未



● 老後のわん
 老後のわん
 老後のわん
 老後のわん

老後のわん
 老後のわん
 老後のわん
 老後のわん



まの自便二年の
 十二年とて
 元年の多かりたる
 乙未

まの自便二年の
 十二年とて
 元年の多かりたる
 乙未

大く上品さき丸 一丁三十二
 小児にきき丸 一丁三十二
 小児にきき丸 一丁三十二
 小児にきき丸 一丁三十二

京傳店
 老後のわん
 老後のわん
 老後のわん
 老後のわん

三月月日のうらひの影を大由内のみれみすを泣して
あつらひをなすまはたけゆめのみらふ一年はたて
きつる箱八共女小ゆめを女あつらひつゆめを
あつらひをなすまはたけゆめのみれみすを泣して
あつらひをなすまはたけゆめのみらふ一年はたて
きつる箱八共女小ゆめを女あつらひつゆめを



あつらひをなすまはたけゆめのみれみすを泣して
あつらひをなすまはたけゆめのみらふ一年はたて
きつる箱八共女小ゆめを女あつらひつゆめを
あつらひをなすまはたけゆめのみれみすを泣して
あつらひをなすまはたけゆめのみらふ一年はたて
きつる箱八共女小ゆめを女あつらひつゆめを

あつらひをなすまはたけゆめのみれみすを泣して
あつらひをなすまはたけゆめのみらふ一年はたて
きつる箱八共女小ゆめを女あつらひつゆめを
あつらひをなすまはたけゆめのみれみすを泣して
あつらひをなすまはたけゆめのみらふ一年はたて
きつる箱八共女小ゆめを女あつらひつゆめを



あつらひをなすまはたけゆめのみれみすを泣して
あつらひをなすまはたけゆめのみらふ一年はたて
きつる箱八共女小ゆめを女あつらひつゆめを
あつらひをなすまはたけゆめのみれみすを泣して
あつらひをなすまはたけゆめのみらふ一年はたて
きつる箱八共女小ゆめを女あつらひつゆめを



水月談後編上冊



わがをきくひ
 ありとせよ
 ながいとせよ
 ながいとき
 つゆとせよ
 ながいとき
 ながいとき
 ながいとき
 ながいとき

そのとき
 小ゆき
 西天
 ちん
 とん
 のん
 のん
 のん
 のん

血筆

山東京傳作



徳瓶書筆



京傳製
 白牡丹
 西天
 のん
 のん
 のん
 のん
 のん
 のん
 のん

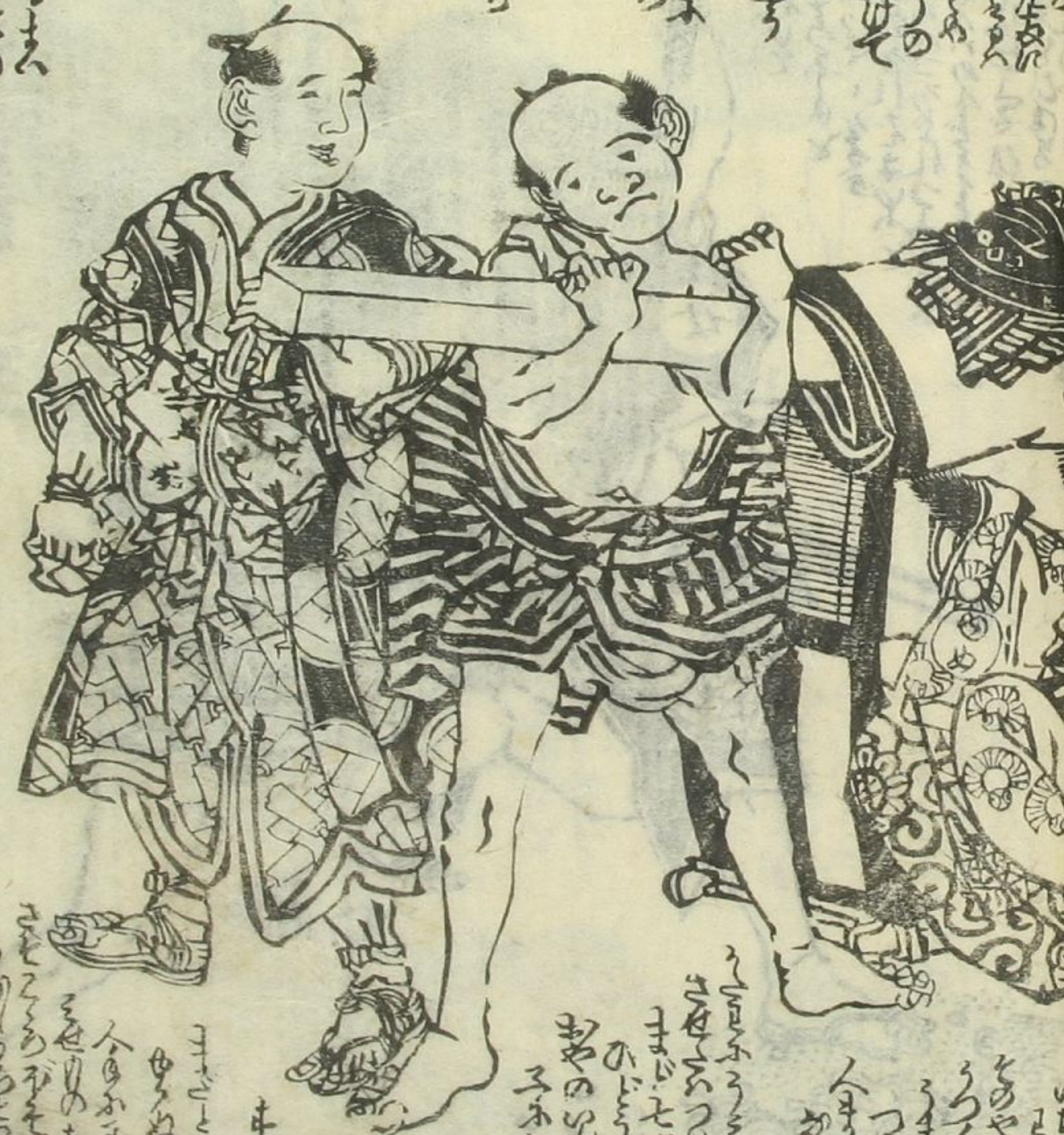
わがをきくひ
 ありとせよ
 ながいとき
 つゆとせよ
 ながいとき
 ながいとき
 ながいとき
 ながいとき

ついでに 母が又よよのむくわいの死
を聞きかへりて ちとちと悲しむ
ついでに 母が又よよのむくわいの死
を聞きかへりて ちとちと悲しむ
ついでに 母が又よよのむくわいの死
を聞きかへりて ちとちと悲しむ



ついでに 母が又よよのむくわいの死
を聞きかへりて ちとちと悲しむ
ついでに 母が又よよのむくわいの死
を聞きかへりて ちとちと悲しむ

ついでに 母が又よよのむくわいの死
を聞きかへりて ちとちと悲しむ
ついでに 母が又よよのむくわいの死
を聞きかへりて ちとちと悲しむ
ついでに 母が又よよのむくわいの死
を聞きかへりて ちとちと悲しむ



ついでに 母が又よよのむくわいの死
を聞きかへりて ちとちと悲しむ
ついでに 母が又よよのむくわいの死
を聞きかへりて ちとちと悲しむ

Handwritten text at the top right of the right page, likely a title or introductory note.

Vertical columns of handwritten text on the right page, providing commentary on the scene.



Handwritten text at the bottom right of the right page, possibly a signature or a specific note.

Vertical columns of handwritten text on the left page, providing commentary on the scene.



Handwritten text at the bottom left of the left page, possibly a signature or a specific note.

水月談後編中冊



此の物語は...
 昔の物語...
 水月談...
 後編...
 中冊...

上
 右の...
 左の...
 名取下角
 橋

水月

七



山崎 虎之助
 乃 虎之助 虎之助 虎之助
 乃 虎之助 虎之助 虎之助
 乃 虎之助 虎之助 虎之助
 乃 虎之助 虎之助 虎之助

虎之助 虎之助 虎之助
 乃 虎之助 虎之助 虎之助
 乃 虎之助 虎之助 虎之助
 乃 虎之助 虎之助 虎之助



山崎 虎之助
 乃 虎之助 虎之助 虎之助
 乃 虎之助 虎之助 虎之助
 乃 虎之助 虎之助 虎之助
 乃 虎之助 虎之助 虎之助

まきのつらやれはさういひわさふ
ろうきれのそくいとたしりて
ゆきまはらうまはてあつての
こふこあわて「るをあらんをけ
うらちぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
けふららこまん死があらぬとせ
かまのつらまはゆきてくぬら
ゆを「らう女「らひをゆをあら
かまららゆらららららららら
よいらまあくとあてあてあて
かれかまはいはゆ
らりふ「れあの一すも
のけであいてあまらふんと
さあけを「あまらふんと
あいらららららららららら
ちそふあらんと
ひしそくゆ
やうゆら
い「女まこ
いとたん
あはら
わつて▲



「このつらやれはさういひわさふ
ろうきれのそくいとたしりて
ゆきまはらうまはてあつての
こふこあわて「るをあらんをけ
うらちぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
けふららこまん死があらぬとせ
かまのつらまはゆきてくぬら
ゆを「らう女「らひをゆをあら
かまららゆらららららららら
よいらまあくとあてあてあて
かれかまはいはゆ
らりふ「れあの一すも
のけであいてあまらふんと
さあけを「あまらふんと
あいらららららららららら
ちそふあらんと
ひしそくゆ
やうゆら
い「女まこ
いとたん
あはら
わつて▲

まきのつらやれはさういひわさふ
ろうきれのそくいとたしりて
ゆきまはらうまはてあつての
こふこあわて「るをあらんをけ
うらちぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
けふららこまん死があらぬとせ
かまのつらまはゆきてくぬら
ゆを「らう女「らひをゆをあら
かまららゆらららららららら
よいらまあくとあてあてあて
かれかまはいはゆ
らりふ「れあの一すも
のけであいてあまらふんと
さあけを「あまらふんと
あいらららららららららら
ちそふあらんと
ひしそくゆ
やうゆら
い「女まこ
いとたん
あはら
わつて▲



まきのつらやれはさういひわさふ
ろうきれのそくいとたしりて
ゆきまはらうまはてあつての
こふこあわて「るをあらんをけ
うらちぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
けふららこまん死があらぬとせ
かまのつらまはゆきてくぬら
ゆを「らう女「らひをゆをあら
かまららゆらららららららら
よいらまあくとあてあてあて
かれかまはいはゆ
らりふ「れあの一すも
のけであいてあまらふんと
さあけを「あまらふんと
あいらららららららららら
ちそふあらんと
ひしそくゆ
やうゆら
い「女まこ
いとたん
あはら
わつて▲

まのつま... せん... の... ま... の... の
 下... の... の... の... の... の... の... の... の
 上... の... の... の... の... の... の... の... の
 中... の... の... の... の... の... の... の... の
 左... の... の... の... の... の... の... の... の
 右... の... の... の... の... の... の... の... の

○それ...
 さ... の...
 さ... の...
 さ... の...
 さ... の...
 さ... の...
 さ... の...
 さ... の...

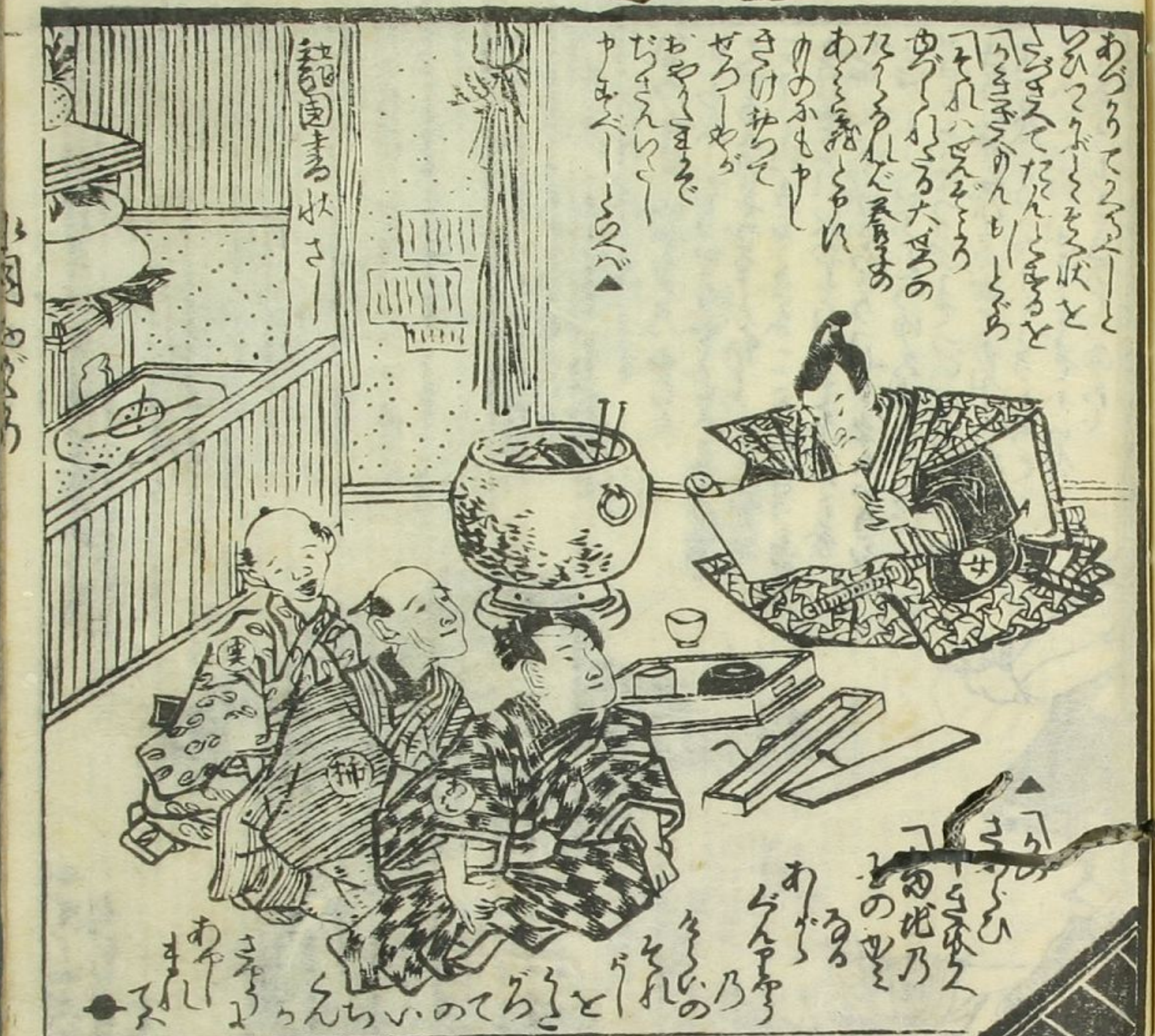
▲養子ありればよ
 との... の... の... の... の... の... の... の

まのつまのせん... のまのの... の
 下... の... の... の... の... の... の... の
 上... の... の... の... の... の... の... の... の
 中... の... の... の... の... の... の... の... の
 左... の... の... の... の... の... の... の... の
 右... の... の... の... の... の... の... の... の

○それ...
 さ... の...
 さ... の...
 さ... の...
 さ... の...
 さ... の...
 さ... の...
 さ... の...

▲養子ありればよ
 との... の... の... の... の... の... の... の

九六



あつらひてふくろ
しめてよくそく
かきてたんと
うまきんひ
あつらひてふくろ
しめてよくそく
かきてたんと
うまきんひ

あつらひてふくろ
しめてよくそく
かきてたんと
うまきんひ

あつらひてふくろ
しめてよくそく
かきてたんと
うまきんひ



あつらひてふくろ
しめてよくそく
かきてたんと
うまきんひ

あつらひてふくろ
しめてよくそく
かきてたんと
うまきんひ

讀書丸
福解舎園直魚

山東京傳作



筆耕 橋本徳瓶

西の野に下りて
男をよめりけり
子孫をまらんと
あつてむけ
るべしとて
世にやうあひまら
しむるなりけり
○江戸の福解舎園直魚の
雅志のつくはるる
人々をいふ

京傳自画えん

願の事

たん

まを

のぞ

あつ

○江戸の福解舎園直魚の
雅志のつくはるる
人々をいふ

相見を依りて
つれづれに
あつてむけ
るべしとて

○江戸の福解舎園直魚の
雅志のつくはるる
人々をいふ

あつてむけ
るべしとて

あつてむけ
るべしとて

あつてむけ
るべしとて

○江戸の福解舎園直魚の
雅志のつくはるる
人々をいふ

○江戸の福解舎園直魚の
雅志のつくはるる
人々をいふ

早稲田大学図書館

011488557426